

2024 年行事予定

- 4～5月 第1回理事会
決算・総会招集
- 5月20日(月) 第93回教育セミナー
～6月3日(月) (オンデマンド配信)
- 6月29日(土) 日本臨床検査専門医会
～6月30日(日) 第3回年次大会
29日(土) 第2回理事会、2024年度定
時社員総会、生涯教育講演会
- 7月26日(金) 第41回臨床検査振興セミ
ナー(御茶ノ水ソラシティ
カンファレンスセンター)
- 8月 こども霞が関見学デー
- 10月 第3回理事会
- 11月11日(木) 臨床検査の日
全国検査と健康展(11月～12月)
11月11日つながぎイベント
- 11月28日(木) 第71回日本臨床検査医学
～12月1日(日) 会学術集会(大阪)
- 11月28日(木) 第4回理事会、2024年度
臨時社員総会・講演会・
共催セミナー
- 2025年3月 第5回理事会

* 2024年度は役員選挙の年となります。
日程等については追ってお知らせします。

【目次】

p.1	巻頭言
p.2	事務局からのお知らせ、2024年度日本臨床検査専門医会・行事予定・予算
p.3	2024年度定時社員総会報告、第3回年次大会報告
p.4	024年度教育セミナー開催報告、第41回臨床検査振興セミナーのお知らせ、2こども霞が関見学デーの参加、第72回日本臨床検査医学会学術集会のお知らせ、2024年度会費振込のお願い
p.5	住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について、会員の声
p.6	会員の声、編集後記



りんしょう犬さん LINE スタンプ

りんしょう犬さん LINE スタンプの検索方法
LINE→ウォレット→スタンプショップ

「りんしょう犬さん」を検索
検索結果→「クリエイターズ」を選択

りんしょう犬さんスタンプ
購入サイト

<https://store.line.me/stickershop/product/8679516>

※ 収益が発生した場合は全て「臨床検査」の重要性を
社会に伝える活動に使用させていただきます

巻頭言

日本臨床検査医学会の英文誌 Laboratory Medicine International の将来展望

東京慈恵会医科大学附属柏病院 病院長
東京慈恵会医科大学臨床検査医学講座 教授
吉田 博

日本臨床検査医学会の学会誌において和文誌の始まりは臨床病理・臨床病理懇談会機関雑誌であり、1953年1月に1巻1号が出版された。以後この臨床病理は長期間にわたり、日本臨床病理学会およびそれを継承する日本臨床検査医学会の学会誌として発展した。学会名称が変更されるにともない、臨床病理は2020年12月に発刊された68巻12号を最後に、2021年1月からは日本臨床検査医学会誌として次なる時を刻み出し、69巻1号が発刊され現在に至っている。

これまでに本学会誌は、主として臨床検査医学分野において数多くの重要なエビデンスやメッセージを発信してきた。実はそのなかで相当数の英文論文も出版されてきたのも事実である。2000年48巻から2022年70巻のなかで計85本の英文論文が本学会の和文誌に出版されていた。本学会のみならず国内の他分野の学会においても、和文誌による活動とともに英文論文による情報発信の重要性が広く認識され、和文誌とともに英文誌を創刊する動きが続いている。国際的な情報の発信と共有は、学術の発展さらには関連分野が及ぼす人々の健康推進に大いに貢献する。これまでの様々な議論を経て、日本臨床検査医学会として英文誌 Laboratory Medicine International (略称 LMI) が2022年12月に第1巻第1号として創刊された。私は2021年4月より日本臨床検査医学会の編集委員長を務めていることもあって、この創刊された LMI の Chief Editor に就任したが、その責務の重さを感じている。この LMI 掲載の論文は J-STAGE のなかで広く発信されるが、当初は論文投稿査読システムのプラットフォームが未完成であった。そのため和文誌の方に投稿された英文原稿でアクセプトになった論文が、著者の承認のもと LMI へ移行する暫定的な措置をとった。また一部にはシステム未完成の時期に電子メールを介して投稿査読プロセスを補助した時期もあった。その後2023年7月に入り、ようやく ScholarOne Manuscripts による LMI の投稿査読システムが一定程度整ったが、執筆者の立場および編集者の立場と査読者の立場におけるプロセスについて、半年以上にわたって幾つかのシステム修正が加えられ、現在に至っている。2022年の第1巻は創刊号のみ、2023年の第2巻は1～3号に留まったが、2024年の第3巻は本来の構想である季刊誌 quarterly を目指して3月に1号、6月に2号と LMI は順調に出版されているのは、学会員および臨床検査分野でお仕事をされている皆様方のお蔭である。

昨年2023年に長崎で開催された第70回日本臨床検査医学会学術集会(集会長; 柳原克紀・長崎大学医学部教授)において、編集委員会(委員長: 吉田博・東京慈恵会医科大学教授)と国際委員会(委員長: 下澤達雄・国際医療福祉大学教授)の合同委員会企画セッション「学会誌の英文版の発刊と学会国際活動」が行われた。各演者の先生方が Board member となっているジャーナルで、LMI と同じプラットフォームを投稿・査読システムに持つ Eur J Clin Invest、J Nutr Sci Vitaminol や Circ Report、異なるシステムをプラットフォームに持つ Clin Chim Acta、J Thromb Haemost、Arterioscler Thromb Vasc Biol などの経験を共有して比較参照しながら LMI の課題が議論された。望むらくは LMI が近い将来に PubMed に搭載され、Clarivate 社による IF が取得することである。

現在、LMI 独自のホームページを作成中であり、よりアクセスしやすい環境を整え、海外からの投稿も増えていくように取り組んでいる。ScholarOne Manuscripts のシステムを通じて多くの原稿が投稿され、J-STAGE やジャーナルホームページに掲載される LMI ジャーナルから、素晴らしい論文が数多く世界に発信されることを期待する。

【事務局からのお知らせ】

【会員動向】

2024年7月8日現在数 638 名、専門医 532 名

【新入会員】(敬称略)

吉松 真也：防衛医科大学校検査部
菅原 明：東北大学大学院医学系研究科分子内分科学分野
大内 伸介：松山市民病院
藤原 智之：東京女子医科大学附属足立医療センター検査科
松田 航平：福井大学医学部附属病院検査部
吉見 竜介：横浜市立大学医学部血液・免疫・感染症内科学
高橋 良太：順天堂大学医学部臨床検査医学講座
高橋 直生：福井大学医学部附属病院
大西 徳子：千葉大学医学部附属病院
今井 一男：埼玉医科大学臨床検査医学
小林 弘典：島根大学医学部附属病院検査部
添田 祐治：北九州総合病院麻酔科
菊地 勝太：長崎大学大学院医歯薬総合研究科病態解析・診断学
福田 智子：大分大学医学部附属病院循環器内科・
臨床検査診断学講座

金地佐千子：九州大学医学研究院臨床検査医学分野
葛岡 春美：永寿総合検診予防医療センター
加勢田富士子：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
病態解析・診断学分野

前田 卓哉：埼玉医科大学医学部臨床検査医学
(大学病院中央検査部)

義久 精臣：福島県立医科大学保健科学部臨床検査学科・
医学部循環器内科

上村 大輔：横浜市立大学医学部附属病院臨床検査部

【所属・その他変更】(敬称略)

三井田 孝：旧 順天堂大学大学院医学研究科臨床病態検査医学(教授)
新 順天堂大学医療科学部臨床検査学科(特任教授)
吉澤 明彦：旧 京都大学医学部附属病院病理診断科(准教授)
新 奈良県立医科大学病理診断学講座(教授)
横山 麗子：旧 九州大学病院検査部
新 浜の町病院
賀来 満夫：旧 東北医科薬科大学医学部感染症学教室
新 聖マリアンナ医科大学医学部感染症学講座(特任教授)
東上里康司：旧 琉球大学医学部附属病院検査・輸血部
新 名嘉村クリニック

青木 智之：旧 群馬大学医学部附属病院検査部
新 関口病院内科

小柴 賢洋：旧 兵庫医科大学臨床検査医学講座
新 新須磨クリニック(院長)

岩村菜々美：旧 福井大学医学部附属病院
新 隈病院

江橋 正浩：旧 自治医科大学臨床検査部
新 遠別町国民健康保険診療所(所長)

浅香 志穂：旧 信州大学医学部病態解析診断学講座
新 長野県立こども病院臨床検査・病理診断科

小林 広幸：旧 東海大学医学部臨床薬理学講座
新 仁和会総合病院

加藤 寿光：旧 群馬大学医学部附属病院感染制御部
新 群馬大学医学部附属病院先端医療
開発センター(准教授)

諏訪部 章：旧 岩手医科大学医学部臨床検査医学講座
新 新東京病院臨床検査部

久保田 寧：旧 埼玉医科大学総合医療センター輸血部
新 佐賀県医療センター好生館検査部

岡田 仁克：旧 京都橘大学健康科学部臨床検査学科
新 第一東和会病院病理診断科

【退会会員】(敬称略)

松田 圭二：帝京大学外科

堀田 綾子：国立病院機構相模原病院

竹中 道子：

秦 爽華：すずらん訪問診療クリニック

森山 耕成：

海渡 健：東京慈恵会医科大学附属病院

中村 丈洋：川崎医科大学生理学2

辻 剛：つじりウマチ科内科

弘田 俊行：大阪血清微生物研究所

石丸 直樹：さいがた医療センター

荒木 栄爾：

高橋 良太：順天堂大学臨床検査医学科

【訃報】

高柳 尹立先生 2024年3月3日ご逝去

中原 一彦先生 2024年6月10日ご逝去(本会名誉会員)
ご冥福をお祈り申し上げます。

【2024年度日本臨床検査専門医会・行事予定・予算】

024年度日本臨床検査専門医会、行事予定、予算について
理事会より報告いたします(表1、2)。

2024年度(2024年4月～2025年3月)
日本臨床検査専門医会年間行事予定表(2024年3月現在)

日 時	内 容	開催場所	担当責任者
4～5月 5月20日～6月3日 6月29日～30日	第1回理事会：決算・総会招集 第93回教育セミナー 第3回年次大会 第2回理事会 社員総会：決算承認 生涯教育講演会	オンデマンド配信 紀南看護専門学校 + オンデマンド配信	庶務 教育研修委員長 尾崎 会長 庶務 庶務 教育研修委員長
7月26日	第41回臨床検査振興セミナー	御茶ノ水ソラシティ	渉外委員長
8月	こども震が関見学デー	厚生労働省	広報ネットワーク委員長
9月～10月	第3回理事会	開催形式未定	庶務
11月11日	臨床検査の日 全国検査と健康展 11月11日つなぎイベント		渉外委員長 広報ネットワーク委員会
11月28日～12月1日 28日(時刻は未確定) 28日(時刻は未確定)	第71回日本臨床検査医学会学術集会 第4回理事会 臨時社員総会・講演会 共催セミナー	大阪 開催形式未定	庶務 庶務
2024年3月	第5回理事会	開催形式未定	庶務

* 2025～26年度役員選挙

表2 2024年度予算
(2024年4月1日から2025年3月31日まで)

		(単位:円)		
項目		2024年度予算額	2023年度予算額	増減
収入欄	会費	5,400,000	5,400,000	0
	賛助会員会費・寄付金	3,100,000	3,000,000	100,000
	小計	8,500,000	8,400,000	100,000
	その他入金			
	広告収入	160,000	240,000	▲80,000
	教育セミナー参加費	500,000	400,000	100,000
	生涯教育講演会参加費	500,000	280,000	220,000
	振興セミナー参加費	100,000	0	100,000
	年次大会収入	4,090,000	2,000,000	2,090,000
	利息	1,000	1,000	0
雑収入	11,000	11,000	0	
小計	5,362,000	2,932,000	2,430,000	
入金合計	13,862,000	11,332,000	2,530,000	
支出欄	庶務経費			
	事務所維持費	1,832,000	1,832,000	0
	人件費	1,930,000	2,100,000	▲170,000
	設備費	8,000	8,000	0
	電話・FAX使用料	54,000	54,000	0
	通信費(事務局)	200,000	200,000	0
	顧問料	462,000	385,000	77,000
	事務局雑費	64,000	82,000	▲18,000
	小計	4,550,000	4,661,000	▲111,000
	事業経費			
	印刷代	1,020,000	830,000	190,000
	要覧印刷代	0	0	0
	通信費	870,000	720,000	150,000
	年次大会費	4,590,000	2,500,000	2,090,000
	臨床検査振興セミナー費	620,000	300,000	320,000
	教育研修事業費	430,000	350,000	80,000
	会議費	400,000	610,000	▲210,000
	交通費	80,000	80,000	0
	宿泊費	0	30,000	▲30,000
	原稿料	40,000	0	40,000
	専門医会ネットワーク維持費	0	0	0
	HP維持費	396,000	396,000	0
	会員管理委託費	132,000	121,000	11,000
	広報ネットワーク委員会関連費用	50,000	50,000	0
	JCCLS会費	50,000	50,000	0
	WASPALM会費	64,000	64,000	0
	臨床検査振興協議会	300,000	300,000	0
	内保連	200,000	200,000	0
	雑費	0	0	0
	小計	9,242,000	6,601,000	2,641,000
法人税等	70,000	70,000	0	
出金合計	13,862,000	11,332,000	2,530,000	
収支	0	0	0	

【2024年度定時社員総会報告】

2024年度一般社団法人日本臨床検査専門医会定時社員総会は2024年6月29日(土)に和歌山県田辺市紀南看護専門学校にて開催されました。正会員数602名中現地参加42名事前の委任状提出が304名あり、定款上の規定を満たしたため、総会は成立し、下記審議事項の他、各委員会委員長からの前年度総括の活動報告がありました。詳細についてはホームページに掲載予定です。

主な審議事項として2023年度事業報告・決算承認、2024年度有功会員の追加承認がありました。

第1号議案 議事録署名人の選任 橋口 照人先生
木村 聡先生

第2号議案 決算の承認(表3-1、3-2)

第3号議案 2024年度有功会員追加承認について
大西 明広先生

上記各議案は承認されました。

【第3回年次大会報告】

第3回年次大会(尾崎敬会長・紀南病院中央検査部部長)は、6月29日(土)～30日(日)に和歌山県田辺市紀南看護専門学校にて会場開催、7月11日(木)～25日(木)にオンデ

表3-1 2023年度 正味財産増減計算書
(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

		(単位:円)		
項目		2023年度予算	2023年度決算	予算と決算の差
収入欄	会費等	5,400,000	5,480,000	80,000
	賛助会員会費・寄付金	3,000,000	3,100,000	100,000
	小計	8,400,000	8,580,000	180,000
	その他			
	広告収入	240,000	0	△240,000
	教育セミナー参加費	400,000	584,000	184,000
	生涯教育講演会参加費	280,000	0	△280,000
	年次大会収入	2,000,000	3,357,000	1,357,000
	利息	1,000	222	△778
	雑収入	11,000	10,724	△276
小計	2,932,000	3,951,946	1,019,946	
収入合計	11,332,000	12,531,946	1,199,946	
支出欄	庶務経費			
	事務所維持費	1,832,000	1,809,874	△22,126
	人件費	2,100,000	2,452,821	352,821
	設備費	8,000	170,500	162,500
	電話・FAX使用料	54,000	83,033	29,033
	通信費(事務局)	200,000	264,791	64,791
	顧問料	385,000	462,000	77,000
	事務局雑費	82,000	181,094	99,094
	小計	4,661,000	5,424,113	763,113
	事業経費			
	印刷代	830,000	380,991	△449,009
	通信費	720,000	694,836	△25,164
	年次大会費	2,500,000	2,285,910	△214,090
	臨床検査振興セミナー費	300,000	220,625	△79,375
	教育研修事業費	350,000	407,214	57,214
	会議費	610,000	455,600	△154,400
	交通費	80,000	100,838	20,838
	宿泊費	30,000	0	△30,000
	HP維持費	396,000	396,000	0
	会員管理委託費	121,000	121,000	0
	広報ネットワーク委員会関連費用	50,000	47,580	△2,420
	JCCLS会費	50,000	50,000	0
	WASPALM会費	64,000	64,968	968
	臨床検査振興協議会	300,000	300,000	0
内保連	200,000	200,000	0	
雑費	0	37,865	37,865	
小計	6,601,000	5,763,427	△837,573	
法人税等	70,000	70,000	0	
支出合計	11,332,000	11,257,540	△74,460	
当期経常増減額(収入-支出)	0	1,274,406	1,274,406	
当期正味財産増減額	0	1,274,406	1,274,406	
正味財産期首残高	28,280,192	28,280,192	0	
正味財産期末残高	28,280,192	29,554,598	1,274,406	

表3-2 貸借対照表(2024年3月31日現在)

		(単位:円)		
科目		当年度	前年度	増減
1	I 資産の部			
2	1. 流動資産			
3	現金預金	31,025,307	30,932,776	92,531
4	未収金	200,289	428,289	△228,000
5	前払金	143,865	176,330	△32,465
6	貯蔵品	5,000	0	5,000
7	流動資産合計	31,374,461	31,537,395	△162,934
8	資産合計	31,374,461	31,537,395	△162,934
9	II 負債の部			
10	1. 流動負債			
11	未払金	526,415	1,828,038	△1,301,623
12	前受金	1,130,000	1,105,000	25,000
13	前受会費	75,000	235,000	△160,000
14	預り金	18,448	19,165	△717
15	未払法人税等	70,000	70,000	0
16	流動負債合計	1,819,863	3,257,203	△1,437,340
17	負債合計	1,819,863	3,257,203	△1,437,340
18	III 正味財産の部			
19	正味財産	29,554,598	28,280,192	1,274,406
20	正味財産合計	29,554,598	28,280,192	1,274,406
21	負債及び正味財産合計	31,374,461	31,537,395	△162,934

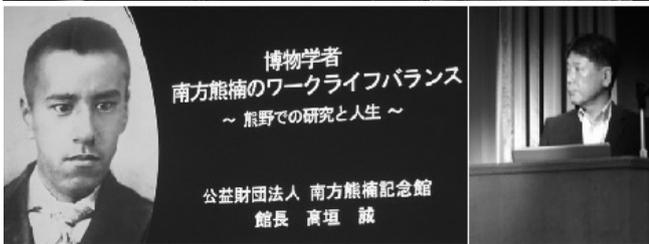
注記

1. 重要な会計方針
消費税等の会計処理 税込法による。

附属明細書

記載すべき事項はない。

マンド配信のハイブリッド形式で開催されました。初日は生涯教育講演会2講演の他、国内外の多彩な演者による甲状腺に関する講演があり充実した1日となりました。2日目は遺伝子学の初歩から現状までを学べるような講演で、専門医会所属の講師4名が担当し、up-to-dateな情報を共有する場とな



りました。都心から離れ、また天候不順な中、会員、非会員、賛助・協賛会社社員の方など、現地参加者は2日間で延べ75名となり、盛会のうちに幕を閉じました。なお初日夜には、南紀白浜ホテルシーモアにて懇親会が開催されました。熊野の偉人であり、今大会のポスターに起用させていただいた南方熊楠の、記念館館長による講演があり、また、参加者同士の情報交換も盛り上がり、楽しいひと時となりました。ご協力いただいたすべての先生方、賛助・協賛会社の皆様へ心より御礼申し上げます。

2025年度第4回年次大会(幸村近会長・北海道医療大学)は、2025年5月23日(金)～24日(土)に北海道札幌市アスティ45(札幌駅直結)で開催予定です。「up-to-date 臨床検査～北海道から発信」をテーマに掲げ、準備を進めています。情報が更新され次第ホームページでお知らせしてまいります。

【2024年度教育セミナー開催報告】

2024年度第93回教育セミナーは、5月20日～6月3日オンライン配信にて開催いたしました。専門医試験受験を目指す専攻医の方以外にも、すでに専門医資格をお持ちの先生方にもご参加いただき、今年も70名を超える多くの受講者に参加していただきました。受講者の皆様、ご協力いただいた講師の先生方、合格者体験談を担当いただいた先生方に感謝いたします。今年度受験を予定されている先生方、ご健闘を祈念します。

また、今年度は新たな試みとして「合格者と受講者のつどい」をZOOM開催しました。日程の都合で、希望者全員の参加はできませんでしたが、本会理事、教育研修委員会委員なども含め約40名の参加がありました。教育セミナーを対面開催していた頃の、専攻医同士の交流、専攻医から専門医への相談の場の代わりを目的とし、企画・開催しましたが開催後の

アンケートなどを通じ多くの課題を見出しました。今後の開催または開催方法について委員会・理事会で検討していきます。

【第41回臨床検査振興セミナーのお知らせ】

第41回臨床検査振興セミナーは、下記日程で開催いたしました。2019年以来4年ぶりの対面開催となりました。平日の午後という限られた時間ではありましたが、本会賛助会員企業社員の方、本会所属医師、総勢約50名の参加がありました。なお、今年度は診療報酬改定の年でしたので、厚生労働省より講師を招き解説をいただきました。

本セミナーは本会正会員(有功会員含む)・名誉会員と日頃ご支援をいただいている賛助会員との貴重な情報交換の場でもあります。来年度以降も、開催を続けていきたい行事の一つです。今回ご参加・ご協力いただいた会員の皆様へ感謝するとともに、今後ともご理解・ご協力をお願いいたします。

開催形態：会場開催

開催日：2024年7月26日(金)14:00(受付：13:30開始)
会場：お茶の水ソラシティカンファレンスセンター ROOM B
東京都千代田区神田駿河台4-6
JR御茶ノ水駅 徒歩1分(千代田線新御茶ノ水駅直結)

情報交換会：16:30～同会場テラスルーム

内容：第一部：「次回の診療報酬改定へ向けて」
(専門医機構臨床検査領域講習会)
講演1「令和6年度診療報酬改定について」
講師：厚生労働省保険局医療課 加古 敦也
講演2「令和8年度の診療報酬改定への期待と課題ー臨床検査医の立場からー」
講師：千葉大学 松下 一之
第二部：「新型コロナウイルス感染症の過去・現在・未来」
(専門医機構臨床検査領域講習会)
講師：富山大学医学部微生物学講座教授 森永 芳智

【こども霞が関見学デーの参加】

昨年同様厚生労働省が開催をする「こども霞が関見学デー」に、本会は広報・ネットワーク委員会イベント部門が中心となり協力します。今年度は「うんちやおしっこ・血液を検査するとながわかるかな?～白衣を着て臨床検査を体験しよう!!～」と題し、内容としては、ご来場された親子に臨床検査の紹介をし、体験をしてもらいイベントです。開催日は8月7日、8日、対象者は未就学児～高校生までです。詳細は厚生労働省のホームページに掲載されています。なお、本イベントは広報委員専門医の他、専攻医の方にご協力をお願いしています。臨床検査専攻医マニュアル「3.経験目標(4)地域医療の経験、(3)地域内において種々団体が開催する臨床検査の啓発事業に積極的に参加し、協力する。」の1回分としてカウントすることができます。今後も参加を予定しますので、引き続きご理解・ご協力をお願いいたします。

【第71回日本臨床検査医学会学術集会のお知らせ】

会期：2024年11月28日(木)～12月1日(日)
会場：大阪国際会議場(グランキューブ大阪)
会長：日野 雅之
(大阪公立大学大学院医学研究科血液腫瘍制御学兼 臨床検査・医療情報医学)
副会長：稲葉 亨
(京都府立医科大学感染制御・検査医学/京都府立医科大学附属病院臨床検査部)
テーマ：臨床検査学の魅力と多様性にせまる
詳細は日本臨床検査医学会 大会ホームページをご確認ください

ください。

<http://jslm71.umin.jp/>

【2024 年度会費振込のお願い】

本年 4 月に年会費振込用紙をお送りいたしました。未納の方は納入くださいますようお願いいたします。

2024 年度年会費(会計年度：2024 年 4 月～2025 年 3 月)：
10,000 円

(2024 年 4 月 1 日現在 70 歳以上の方は 5,000 円)

銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900
店番：019 店名：〇一九店(ゼロイチキユウ店)
預金種目：当座 口座番号：0020509
口座名：一般社団法人 日本臨床検査専門医会

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

住所・所属の変更にもなるとなると定期刊行物、JACLaPWIRE、電子メールなどの連絡が届かなくなる会員がいます。勤務先、住所および E-mail address 等の変更がありましたら必ず事務局までお知らせ下さい。変更事項はホームページから『会員情報変更届』をダウンロードして記載後、FAX あるいは E-mail でお送りください。

なお、本会では、JACLaPWIRE の配信を含め、セミナー開催情報等会員様への有用なお知らせを、必要に応じメール配信しております。E-mail address のご登録がお済みでない先生は、同様に事務局までお知らせくださいますようお願いいたします。

<連絡先>

日本臨床検査専門医会 事務局(水・土日祝祭日は休業日)
電話：03-3864-0804 FAX：03-5823-4110
メールアドレス：senmon-i@jaclap.org

【会員の声：次世代の臨床検査専門医】

臨床検査技師から臨床検査専門医へ

兵庫医科大学医学部 臨床検査医学講座
中野 正祥

2022 年度に臨床検査専門医となりました兵庫医科大学医学部臨床検査医学講座の中野正祥と申します。まずは専攻医としての研鑽中に指導医として御指導いただきました小柴賢洋先生、宮崎彩子先生、正木充先生をはじめ兵庫医科大学病院の臨床検査技師の皆様は厚く御礼申し上げます。

今回、このような執筆の機会を賜り誠にありがとうございます。初めて執筆させていただくにあたり自己紹介の文章とさせていただきます。

私は和歌山県の小さな田舎町にある中学校を卒業後、公務員になることを目的として高等専門学校に進学しました。そして、早く社会に出たいという思いと経済的に苦しかったこともあり、高専 3 年生の夏に和歌山県職員採用試験を受験し、県職員として和歌山県庁に入庁しました。県職員の同期の中に臨床検査技師がおり、ここで初めて臨床検査技師の存在を知りました。幼い頃から医療職に対する憧れを持っていたものの経済的な理由でその進路を諦めていた私にとって、その臨床検査技師から聞く話は魅力的であり、私は医学を学ぶ道を諦めきれなくなりました。公務員としての安定を捨てて新たな領域に挑戦することに対して恐れはありましたが、一度しかない自分の道を悔いなく歩いていくために決心し、神戸常盤短期大学に入学しました。当時学長であった故 上田國寛学長が初めてお会いした臨床検査専門医となりましたが、学長をはじめとした先生方に様々な質問をさせていただき、

その回答に対してまた質問をする過程の中で医学の不明な点を見出していく作業は大変興味深いもので、疑問は深まる一方でした。さらに、学長主催の勉強会や臨床検査技師会主催の勉強会、学会等にも参加させていただき、検査医学における問題点なども実感することができました。このような先生方との交流の中で、自らも教育研究者となって新しい知識の発見や学生の教育に携わりたいと思うようになりました。教育研究者となるための第一歩として、実際の研究のプロセスを通じて知識をさらに深める目的で京都大学医学部保健学科に編入学いたしました。当初の予定では京都大学で博士課程に進むつもりでしたが、研究の幅を広げて臨床への応用を目指すために医師免許の必要性を感じ、学士編入学制度を利用して滋賀医科大学医学部医学科に編入学いたしました。

医師免許取得後は、関西医科大学附属病院で初期臨床研修医となりました。京都大学在籍時に膠原病の研究を行っていたこともあり、内科を専攻してリウマチ専門医となる道を考えておりましたが、新専門医制度の影響によって臨床検査専門医と内科専門医の双方を取得して維持することが困難になることが予想され、医師 3 年目以降の進路に迷っておりました。様々な選択肢を熟慮した結果、臨床検査技師の臨床実習生として来たことがあった兵庫医科大学病院で臨床検査の専攻医となり、「検査に専門のベースを置きつつも、一般内科の臨床がある程度できる医師」を目指すコンセプトとして掲げて研修を開始しました。兵庫医科大学のスタッフの皆様から様々な形での御協力を賜り、無事に臨床検査専門医試験に合格し、一般内科医としての臨床経験もある程度は積むことができ、目指すコンセプトに近づいていることを実感しております。さらに、医学博士も取得でき、臨床検査技師の学生時代に志した教育研究者としてのスタートラインに立つことができました。医学科の学生だけでなく臨床検査技師養成校の学生の教育にも携わり始めており、臨床検査技師かつ検査専門医という特殊性を活かした教育ができるよう努力して参りたいと考えております。

臨床面におきましては、関西医大での初期研修医時代に様々な診療科をローテートする中で、検査部門を外側の視点から見ることができ、診療科ごとに検査部門に対する印象が大きく異なることを体感しました。また、病院の診療支援部門から得られる様々な情報の中で、放射線画像や病理検査の領域では支援部門側からの十分な解釈情報がフィードバックされているのに対し、生理検査や検体検査の領域では解釈を伴わない生データの返答であることが多く、臨床側が判断に困っている状況を見ました。特に、超音波検査や微生物学的検査に関して、それらを得意としない領域の診療科の先生が、生データだけではなく臨床的な解釈コメントを必要としている状況を数多く経験しました。このようなニーズを的確に埋めることができる臨床検査専門医となれるよう研鑽を積んでまいりたいと考えております。

研究面におきましては、最初に研究者を志した神戸常盤在籍時に故 上田國寛先生が仰っていた「好奇心は Scientist の魂だ」という言葉を忘れないように精力的に新たな知見を探求して参りたいと考えております。現在の研究領域としては、甲状腺疾患におけるバイオマーカー探索を行っております。かつて京都大学時代に行っていた全身性自己免疫疾患の研究過程で得た知識や経験を動員しつつ、臓器特異的自己免疫疾患であるバセドウ病などに焦点をあてて探索を進めております。免疫学の発展可能性には目を見張るものがあり、「Scientist の魂」である好奇心を大きくさせてくれる知見を報告する論文に最近も出会いました。私も誰かの好奇心を惹けるような論文を世に出せるよう尽力していきたいと考えて

おります。

臨床検査医学と私

入間川病院健康管理センター

若松 弘之

平成元年に卒業した頃、まだセット検査が多かったと記憶しています。当時私の母校には臨床検査医学講座があったが RCPC の講義はなく、BST はあったが病棟のない臨床検査医学講座は研究職に思えました。当時母校になかった総合診療部の研修医になり、その後人間ドックで働くようになりました。

RCPC 教育を 50 歳過ぎて受けてから、人間ドックの場でコリンエステラーゼ異常症、総蛋白とアルブミンの乖離からくすぶり型多発性骨髄腫と診断された例、劇症型脚気心を疑う脳ドック受診例に出会いました。画像診断で早期発見する事例以外に基本的検査を横断的・経年的に検討すると隠れていた病態に気づくことが増え、人間ドックの臨床検査データは基本的検査が経年で蓄積されており宝の山かも知れないと思うようになりました。

50 歳過ぎてからの受験の経緯

卒後 10 年目に公衆衛生学講座で医学博士号取得後は指導教授の退職もあり大学を離れました。元々消化器集団検診に関わっていた関係で人間ドック学会・総合健診医学会にも所属しました。医師会員が増加し専門医機構での専門医認定を目指し、別々に学会専門医を認定していた両学会が筆記試験による合同専門医認定を開始したので受験して専門医を取得したのに続き、学会発表実績で指導医にもなりました。しかし、指導できる中身がないと感じて再教育の機会を探しました。

専門医基本 19 領域でどれが私の経歴で適合するか考えてみると、人間ドックでは日々何例も人間ドック基本検査を実施して結果説明をしており、臨床検査医学会のホームページにも臨床検査専門医終了後のセカンドキャリアとして、超音波、臨床遺伝、人間ドック、内視鏡などでの活躍を例として上げていたので、自宅近くの自治医科大学医学部臨床検査医学講座を紹介されて週 1 日研究生となり、2017 年から学会専門医制度の臨床検査専門医を目指し 2023 年度に合格しました。

研修内容

1 年目冬から 2 年目秋までにかけて週 1 回 1 コマで 30 数コマの系統的な検査室実習の機会をいただきました。具体的な指導は検査技師さん達にしてもらい感謝しています。研修開始 2 年までに一定期間超音波研修も入れたかったのですが日程的に断念し、免疫電気泳動から免疫固定法に置き換わる時期でしたのでそれをテーマで学会発表をしました。その後臨床検査管理医に合格しました。専門医受験に原著論文が

必要で、「免疫固定法における IgA 型 M 蛋白の軽鎖同定の問題点」で投稿し当時の臨床病理学会誌に短報で掲載されたものの、ほとんど指導医に添削してもらい完成させたのが実情でした。キャピラリー電気泳動の実験もやってみたかったのですがこれも日程的に合わず、断念しました。そこで臨床検査実習以後 3 年目からは人間ドックで経験した症例報告など論文作成に専念しました。指導医とは断続的になりましたが RCPC、骨髄像、免疫固定法の指導を受けていたので人間ドック事例を相談する機会が持て人間ドックで経験した成人例の遺伝性球状赤血球症や一過性高 ALP 血症のみならず、診断に苦渋した多発性のう胞腎など診断のピットフォール事例も症例報告で人間ドック学会誌に掲載されました。

臨床検査専門医の存在意義

1 点目は臨床検査データの精度、確度の保証で専門医認定機構でも求められています。2 点目は医師とのコミュニケーション、3 点目は患者さんへのコミュニケーション、4 点目は社会的貢献使命と考えました。

4 点目は、学会ないし臨床検査専門医会が国のマイナンバーカード、パーソナルヘルス事業に応じて 2020 年代の新たな基本的検査というべき検査リストを社会に提案していくべきと考えます。具体的には、日常初期保険診療における基本的検査よりも国民が使う基本的検査を志向して、2003 年の臨床検査医学会基本検査 2 と人間ドック学会基本的検査との中間を想定しています。

【編集後記】

6 月末に尾崎敬会長（紀南病院）のもと、日本臨床検査専門医会 第 3 回年次大会が盛会に開催されました。ライブで参加する年次大会では、専門医会のメンバーと密接な交流を行うことができ、新たな交流や共同研究がスタートしているようです。コロナウイルス感染症の影響でオンラインでの会議・学会が増加している現状ではありますが、日本臨床検査専門医会の意義の一つに臨床検査の情報交換があると思います。来年は北海道で幸村近会長（北海道医療大学）のもと、第 4 回年次大会が行われますので、みなさま積極的にご参加いただくと幸いです。

日本臨床検査医学会のレジナビ WG では、医学生・初期研修医の臨床検査医への専攻を推進するために民間医局レジナビ Fair 東京に参加いたしました。予想外の「臨床検査医」の知名度の低さに衝撃を受けるとともに、臨床検査医学の生存のためには医学生・初期研修医へよりアピールする必要があると感じました。個人的な意見ではありますが、SNS などを通じて医学生・初期研修医へのアピールを強化するとともに、オンラインでの説明会などを充実させる必要があると思います。（東海大学医学部臨床検査学 後藤 和人）

一般社団法人 日本臨床検査専門医会

理事長：谷直人、副理事長：山田俊幸

常任理事：村上正巳（庶務）、増田亜希子（会計）、田部陽子（資格審査・規定改定委員会委員長）、幸村 近（渉外委員会委員長）、

福地邦彦（情報・出版委員会委員長）、松下一之（保険点数・データシステム委員会委員長）、尾崎 敬（広報・ネットワーク運営委員会委員長）、

鯉淵晴美（教育研修委員会委員長）

理事：藤井 聡、植木重治、浅井さとみ、山田鉄也、山崎正晴、北中 明、橋口照人

監事：東條尚子、菊池春人

情報・出版委員会：

委員長：福地邦彦

委員：出居真由美、井上暢子、後藤和人、吉田 博、金子 誠

一般社団法人 日本臨床検査専門医会事務局

〒101-0027 東京都千代田区神田平河町 1 番地 第 3 東ビル 908 号

TEL : 03-3864-0804 FAX : 03-5823-4110 E-mail : senmon-i@jaclap.org